

1 小学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化（読み）	伝統的な言語文化（書き）	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式						
1	一	相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話す	○				○			○				85.7	0.3	85	65	◎
1	二	聞き手を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて話す	○				○			○				87.5	0.3	85	65	◎
1	三	話の内容に関心をもって聞く	○				○			○				78.2	0.3	85	65	
1	四	話の内容に関心をもって聞き、分からない点や確かめたい点を質問する	○				○			○				83.7	0.5	80	60	◎
1	五	メモを基に、事例などを挙げながら話す	○				○				○	○		60.5	1.6	75	55	
2	一	相手や目的に応じて、計画を立てて新聞を書く		○						○				48.5	0.4	80	60	▼
2	二	目的に応じ、伝えたい事柄を分かりやすく書く		○						○				82.5	0.5	85	65	
2	三	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く		○						○				51.2	0.6	80	60	▼
2	四	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりするために推敲する		○						○				57.4	0.8	80	60	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く		○							○	○		36.6	3.4	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即しながら読む			○					○				76.3	0.7	80	60	
3	二	行動、会話から登場人物の気持ちの変化を捉えて読む			○					○				79.2	0.7	85	65	
4	一	段落相互の関係を捉えて読む			○					○				68.4	1.2	80	60	
4	二	文章の内容を、中心となる文や語を捉えて読む			○					○				67.9	1.4	80	60	
4	三あ	中心となる語や文に注目して要点をまとめる			○						○			61.1	3.6	80	60	
4	三い	中心となる語や文に注目して要点をまとめる			○						○			73.9	4.1	80	60	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「通る」				○				○	○			95.0	0.8	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「笛」				○				○	○			96.3	1.0	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「放送」				○				○	○			96.3	1.2	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「茶色」					○			○	○			85.6	2.4	85	65	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「決める」					○			○	○			81.8	3.0	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」					○			○	○			65.0	3.1	85	65	
5	三	指示語の役割を理解する					○			○	○			94.1	1.2	80	60	◎
5	四	国語辞典の使い方を理解する						○		○	○			38.9	1.5	80	60	▼
5	五1	修飾と被修飾の関係を理解する							○	○				94.4	1.3	85	65	◎
5	五2	修飾と被修飾の関係を理解する							○	○				94.9	1.3	85	65	◎

② 小学5年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	伝統的な言語文化(知識)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式						
1	一	話し手の意図を捉えながら聞く	○					○				○			70.0	0.2	85	65	
1	二	自分の立場を明確にして話す	○					○				○			85.0	0.2	85	65	◎
1	三	司会の役割に基づいて、話し合いを計画的に進める	○					○				○			46.2	0.4	85	65	▼
1	四	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○					○	○	44.6	4.7	75	55	▼
1	五	話し合いの意図を明確にしなが、計画的に話し合う	○					○				○			8.6	5.5	80	60	▼
2	一	目的や意図に応じて、見出しを書く		○					○			○			81.9	0.2	85	65	
2	二	文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って書く		○					○			○			73.5	0.2	85	65	
2	三	書こうとするものの中心を明確にして書く		○					○			○			63.7	2.6	80	60	
2	四	自分の考えを明確に表現するために、文章の構成を考えて書く		○					○			○			62.7	0.8	85	65	▼
2	五	目的や意図に応じて、自分の意見を書く		○					○				○	○	58.7	3.7	65	45	
3	一	登場人物の相互関係を捉える			○					○		○			65.0	1.4	85	65	
3	二	優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる			○					○			○	○	43.5	6.5	65	45	▼
4	一	構成の仕方や叙述を捉える			○					○		○			35.6	2.4	85	65	▼
4	二	内容を的確に捉え、要旨をまとめる			○					○		○			33.0	2.8	85	65	▼
4	三	文章の内容を的確に捉え、表現の仕方に合わせてまとめる			○					○		○			52.5	3.6	80	60	▼
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「箱」				○						○	○		97.9	1.5	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「喜ぶ」				○						○	○		96.6	1.6	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「配管」				○						○	○		87.4	4.0	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「列島」					○				○	○			45.4	12.7	85	65	▼
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「飛ぶ」					○				○	○			88.6	3.1	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「観察」					○				○	○			64.1	6.2	85	65	▼
5	三	ことわざの意味を知り、適切に用いる						○			○	○			93.4	2.4	85	65	◎
5	四	漢字辞典を使い、読みや意味などを調べる						○			○	○			78.2	3.0	80	60	
5	五	文の構造を見て、二文に分ける						○			○	○			82.0	3.1	80	60	◎

③ 小学6年生

[表3]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	伝統的な言語文化(知識)	話す・聞く能力	書く能力							読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式
1	一	話の要点をメモを利用し、明確に書き留める	○					○			○			47.0	0.1	85	65	▼
1	一	話の構成を工夫して話す	○					○			○			61.2	0.2	85	65	▼
1	二	進行の役割に基づいて、話し合いを計画に沿って進める	○					○			○			74.7	0.1	85	65	
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○					○			○			65.2	0.1	80	60	
1	四	相手の発表を引用し、自分の考えをまとめて感想を話す	○					○			○	○	67.1	3.6	70	50		
2	一	目的や意図に応じて、記述の仕方について工夫する		○					○		○			85.4	0	85	65	◎
2	二	目的や意図に応じて、小見出しを書く		○					○		○			52.8	0.1	80	60	▼
2	三	文章の間違いを正し、よりよい表現にする		○					○		○			87.7	0.1	85	65	◎
2	四	自分の考えが明確に伝わるように、手紙を書く		○					○		○	○	40.5	5.0	65	45	▼	
2	五	表現の曖昧さがないか文章を推敲する		○					○		○			58.5	2.8	80	60	▼
3	一	場面についての描写を捉える			○					○				59.7	2.1	85	65	▼
3	一	登場人物の行動を基に、場面についての描写を捉える			○					○				64.6	1.9	80	60	
3	二	優れた叙述について、自分の考えをまとめる			○						○	○	73.7	5.5	65	45	◎	
4	一	構成の仕方や巧みな叙述などを捉える			○					○				74.6	2.0	85	65	
4	二	文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめる			○					○				50.9	2.6	80	60	▼
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「辺り」				○				○	○			92.8	1.2	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「常識」				○				○	○			93.8	1.9	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「率いる」				○				○	○			96.1	1.6	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「巢」					○			○	○			74.0	3.0	85	65	
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「混雑」					○			○	○			70.6	7.5	85	65	
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「群れる」					○			○	○			71.1	7.3	85	65	
5	三	慣用語の意味を理解する						○		○	○			85.8	2.4	80	60	◎
5	四	必要な語句について、辞書を利用して調べる						○		○	○			77.5	2.8	80	60	
5	五	敬語の使い方を理解する						○		○	○			86.7	2.8	80	60	◎

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 全ての学年において、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学4年生においては、正答率は84.3で、「十分達成」の基準84.0を0.3ポイント上回っている。[グラフ5、グラフ12、グラフ20]
- 内容・領域「書くこと」において、小学4年生の「明確にするために、理由や事例を挙げて書くこと」を問う設問、小学5年生の「明確に表現するために、文章の構成を考えて書くこと」を問う設問が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1、表2]
- 平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた説明的な文章の設問については、小学校5年生では、全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。また、小学6年生でも「文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめること」を問う設問が「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表2、表3]

② 小学4年生

- 内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話すこと」「聞き手を意識して、言葉の抑揚や強調、間の取り方に気を付けて話すこと」「話の内容に関心をもって聞き、分からない点や確かめたい点を質問すること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 評価の観点「言語についての知識・理解・技能」において、「文脈に即して漢字を正しく読むこと」「指示語の役割を理解すること」「修飾と被修飾の関係を理解すること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 内容・領域「書くこと」において、5問中4問で「おおむね達成」の基準を下回っている。特に「相手や目的に応じて、計画を立てて新聞を書くこと」「メモを基に、書こうとするものの中心を明確にして記事を書くこと」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回っており、課題が見られる。[表1]（4年生問2一、五）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問2 一	相手や目的に応じて、 計画を立てて新聞を書く (選択式)	新聞を作るときの順序に、正しく並べ替える。	48.5	0.4	80.0	60.0

- ・ 誤答・無回答の原因として考えられること
新聞作りの手順に対する理解が十分でなかったことや、新聞作りの手順を意識しないまま活動していることが考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
新聞作りの単元の導入の際に、学習をどのように進めていくのか、新聞にどのような内容を書いていくのかなど、児童に学習への見通しをもたせることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。
 - i 新聞作りの単元の導入の際に、課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流といった学習の流れを説明し、学習への見通しをもたせる。その後、児童に新聞作りの計画を立てさせ

ることで、新聞作りの手順が理解できるようにする。さらに、学習の流れをいつでも確認することができるように、教室内に掲示しておく。

- ii 学習を進めていく中で、今、学習計画のどの位置にいるのか、次は何をするのかなど、進行状況を確認させながら計画的に授業を進めていくことで、学習の流れを常に意識させるようにする。
- iii 他教科等の学習において新聞作りをさせる際には、学習したことを振り返らせ、学んだことを活用させることで定着を図ることも考えられる。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問2 五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く (記述式)	メモを基に、条件に合わせて記事を書く。	36.6	3.4	70.0	50.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

新聞の様式に合わせて書くこと、メモから新聞記事へと書き換えることが十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

メモから必要な情報を取り出し、新聞記事の書き方に合わせて文章に書かせることが重要である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 授業を行う際に、書き直す前のメモと書き直した後の新聞記事のモデル文を示し、書き換える際に必要な観点「複数の内容を1つの文にして書く」「新聞記事にふさわしい書き方で書く」などを、全体で確認した上で、新聞記事を書かせるようにする。
- ii 完成した記事をグループで読み合い、観点に沿った記事になっているかどうかを相互評価させることで、自らが身に付けた力を実感させるとともに、友達の優れた表現の仕方を次の活動の参考にさせる。

③ 小学5年生

○ 評価の観点「言語についての知識・理解・技能」において、「文脈に即して漢字を正しく読むこと」「ことわざの意味を知り、適切に用いること」「文の構造をみて、二文に分けること」を問う設問は、全て「十分達成」の基準を上回っている。[表2]
● 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた「聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問すること」を問う設問の正答率は44.6で、「おおむね達成」の基準55.0を10.4ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。[表2]（5年生問1四）
● 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた説明的文章における設問では、全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っており、特に「構成の仕方や叙述を捉えること」を問う設問の正答率は35.6で、「おおむね達成」の基準65.0を29.4ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。[表2]（5年生問4一）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問1 四	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する (記述式)	友達の発表に対して、分からない点を質問する。	44.6	4.7	75.0	55.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

発表の内容を理解することができていても、発表された内容について自分の考えと比べ、共通点や相違点などを整理することができなかつたことが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

相手の話の内容を十分聞き取らせること、話の内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点などについて整理させることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 話し手の目的や意図、伝えたい内容など、話を聞くときの観点を示すことで、聞き取る内容を明確にもたせるようにする。話を聞き終えた際には、話の内容を理解するうえで不十分と感じる内容について質問させるようにする。
- ii 話し合う際には、話合いのテーマに対する自分の考えを明確にするため、事前にノートなどに書かせておくことも効果的である。書いた内容と発表内容とを比べ、共通点や相違点などを整理させ、疑問に思ったことについて質問させるようにする。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問4 一	構成の仕方や叙述を捉える (選択式)	自分の考えを伝えるための筆者の表現の工夫を選択する。	35.6	2.4	85.0	65.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

表現の工夫についての理解が十分ではなかつたために、選択肢に示された工夫の1つ1つが、本文のどこに当たるのかを理解することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

説明的な文章の指導においては、書かれている内容や意図を理解させるだけでなく、筆者の表現方法にまで目を向けさせていくことが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 筆者の表現方法に対する気付きをノートなどに書いて発表させるだけでなく、グループで交流させ、筆者の多様な表現方法に触れさせることで、表現に対する考えを広げさせたり深めさせたりするような交流活動を取り入れる。
- ii 授業を進めていく際には、筆者が書いた別の本や同じテーマが書いてある本を準備したり、課題を調べるための本を準備したりする。さらに、授業中も本を読む時間を確保することで、児童が多様な表現方法に触れられるようにする。

④ 小学6年生

- 内容・領域「書くこと」において、「目的や意図に応じて、記述の仕方について工夫すること」「文章の間違いを正し、よりよい表現にすること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。【表3】
- 内容・領域「読むこと」において、「優れた叙述について、自分の考えをまとめること」を問う設問の正答率は73.7で、「十分達成」の基準65.0を8.7ポイント上回っている。【表3】
- 内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「話の要点をメモを利用し、明確に書き留めること」を問う設問の正答率は47.0で、「おおむね達成」の基準65.0を18.0ポイント下回っており、課題が見られる。【表3】(6年生問1-1)
- 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた、「文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめること」を問う設問の正答率は50.9で、「おおむね達成」の基準60.0を9.1ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。【表3】(6年生問4二)

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
6年生 問1 -1	話の要点をメモを利用し、明確に書き留める (選択式)	発表の意図を捉えて、要点をまとめたメモを選択する。	47.0	0.1	85.0	65.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

日常の学習でメモを取ることは経験していると考えられるが、メモのよさや効果的なメモの取り方についての理解が十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

必要に応じて、調べたことの要点をメモし、メモを基に話合うことで、メモのよさや効果的なメモの取り方に気付かせる活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 説明や報告を聞くときなど、メモを取る活動を行う際に、メモを取るときの観点(話の要点、気付いたこと、連想したこと等)を明確にもたせてからメモを取らせることで、メモの取り方の自覚化を図る。
- ii メモを取った後に、児童同士でメモを取るときの観点を基によりよいメモとなるように話し合わせ、互いに助言をさせるようにすることで、互いにメモの内容を高め合わせる。
- iii 他教科や学校行事などでメモを取る機会を捉えて、メモを取る目的や、メモの取り方を確認し、書かれたメモを基に相互評価する活動を取り入れるなどして、定着を図ることも考えられる。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
6年生 問4 二	文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめる (選択式)	正しく書かれた文章の要旨を選択する。	50.9	2.6	80.0	60.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

目的に応じ、文章の内容を適切に押さえながら要旨を捉えることが十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

要旨を捉えるには目的に応じて、何のために、どのようなことが必要なかを明確にした上で、文章の重要な点に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などにまとめることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 事実と意見を区別しながら読ませる発問、本文と資料などを比べながら読ませる発問、全体の構成を読ませる発問などを取り入れていくことで、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに着目できるようにする。
- ii 多様な種類の文章を読み、要旨を捉える経験をくり返す。さらに、グループで交流させ多様な考えを知ることで、互いに要旨のまとめ方を高め合わせる。

(3) 改善のポイント

① 単元を通して言語活動を位置付ける授業を行っていくこと（４年生問２一）

- ・ 単元の指導計画を立案する段階で、教師が実際に言語活動を行ってみることが大切である。そうすることで、「身に付けたい力」がより具体的に明確になり評価計画等に生かすことができる。
- ・ 単元を設定する際は、単元を通して言語活動を位置付けるとともに、児童に学習課題の設定をさせたり学習計画を立てさせたりすることで、児童に目的意識をもたせることが大切である。

② 「書くこと」の授業の学習計画を児童と共に立てていくこと（４年生問２一、五）

- ・ 単元構成を考える際には、課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流の学習の流れを、それぞれの学年や児童の実態に応じ、取り入れて組み立てていくことが大切である。
- ・ 学習課題を設定する際には、相手意識、目的意識を明確にした学習課題を設定することが大切である。そうすることで、伝える内容が明確になり、単元の最後の交流も学習課題が達成できているかという観点をもたせて、話し合いを進めていくことができる。
- ・ 学習課題や単元計画は、児童との話し合いの中で立てていく。「書くこと」の単元の学習計画を児童と共に立てることで、児童が、書く相手や目的、方法を理解し、学習のゴールを見通して学習に取り組むことができる。

③ 「書くこと」に日常的かつ継続的に取り組ませること（４年生問２五）

- ・ 書くことを日常化させ、継続して取り組ませる際に、テーマを与えたり、書き出しや使える言葉を指定したりするなど、いろいろな文章の特徴に応じて、書くことができる力を付けるための計画的な指導が必要である。
- ・ 児童が書いた作品を、クラス全体に紹介したり授業の際のモデル文に使ったりするなどして、子どもたちの目に留まるようにする。そうすることで、児童がお互いによりよい表現を取り入れていけるようにする。

④ 児童が、自分の考えを広げたり深めたりする話し合いを授業に取り入れること（４年生問２五、５年生問１四、問４一、６年生問１一、６年生問４二）

- ・ 話し合いの際は、伝え合うだけの時間にならないように、「グループの考えを１つにするのか」「よいと思うものを１つ選ぶのか」「自分の考えに書き加えていくのか」など、話し合いの進め方を児童に理解させておくことが大切である。
- ・ 話し合いの形態は、座席の近くで話し合わせたり、全員が自由に動いて話し合わせたりするなど、目的に応じて取り入れていくことが大切である。
- ・ 話し合い活動は、話し合いの内容を振り返らせる活動も大切だが、話し合いの方法自体を振り返らせ、話し合いの質を高める活動も大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

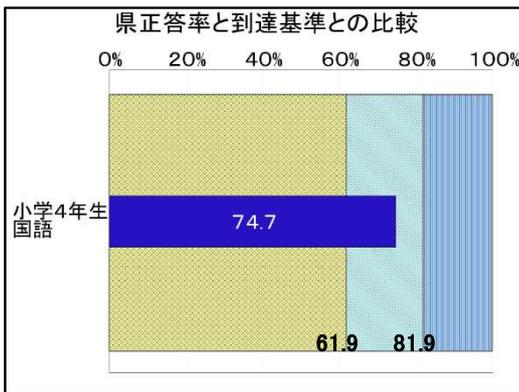
佐賀県教育センターでは、授業に役立つ実践研究として、国語科の「学習プリント」や「授業指導案」を提供しています。国語の授業や国語に関するスキルタイム、家庭学習などで使用することを目的としたプリントです。基礎・基本的な力を身に付けるプリントや、身に付けた知識・技能を学校生活や日常生活場面で活用する力を付けるためのプリントがあります。

３月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」領域の授業改善について Web アップの予定です。ぜひ、ご活用ください。

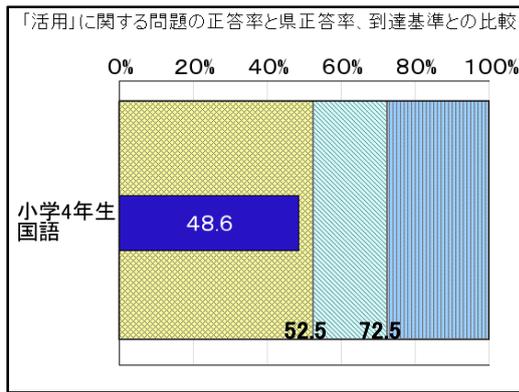
<資料>

① 小学4年生

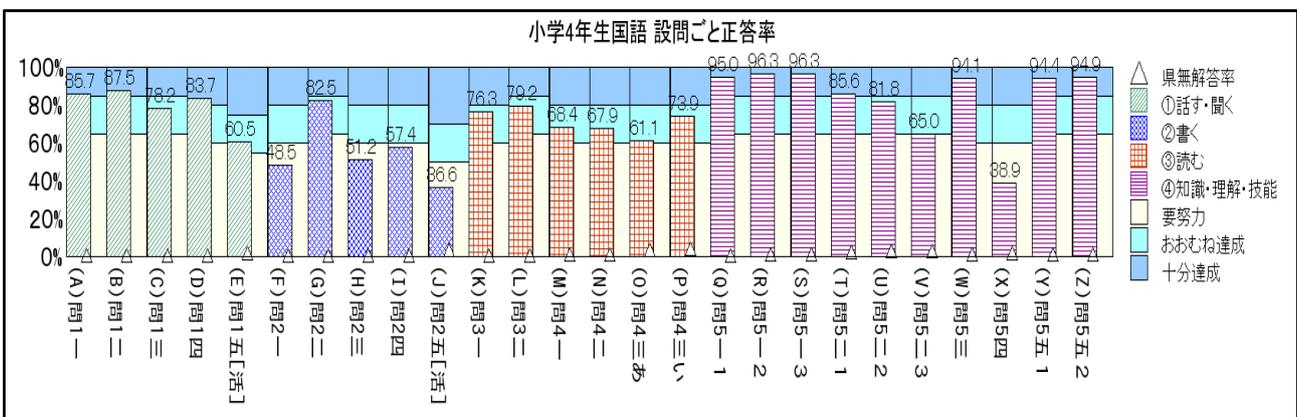
[グラフ1]教科全体正答率



[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



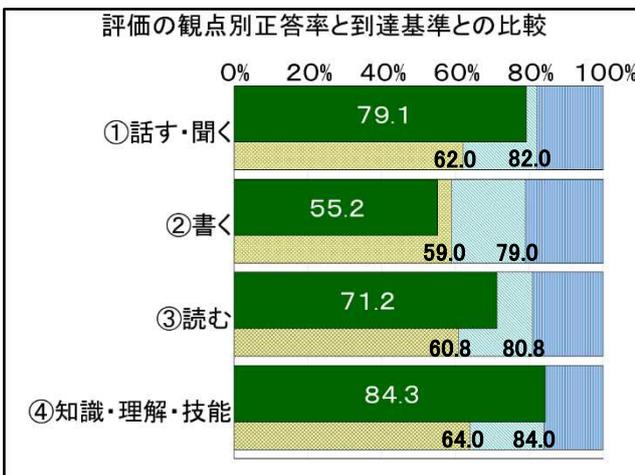
[グラフ3]設問ごと正答率



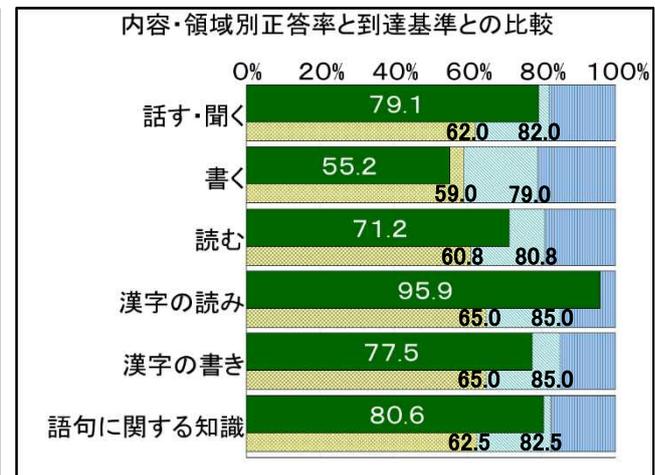
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

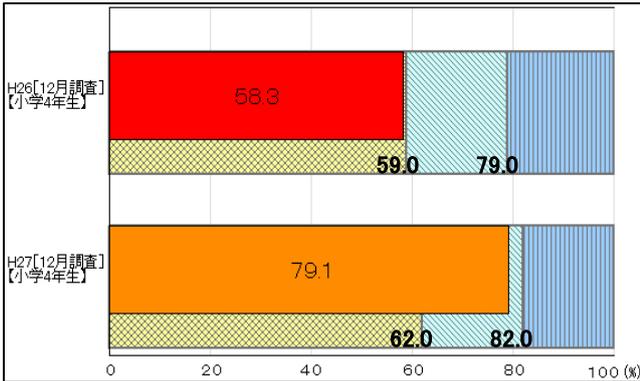


[グラフ6]内容・領域別正答率

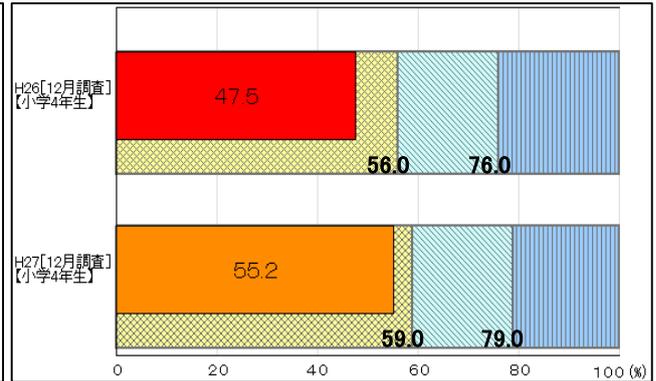


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

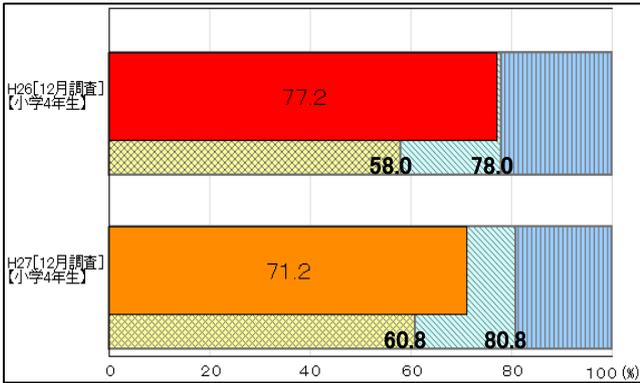
話す・聞く能力



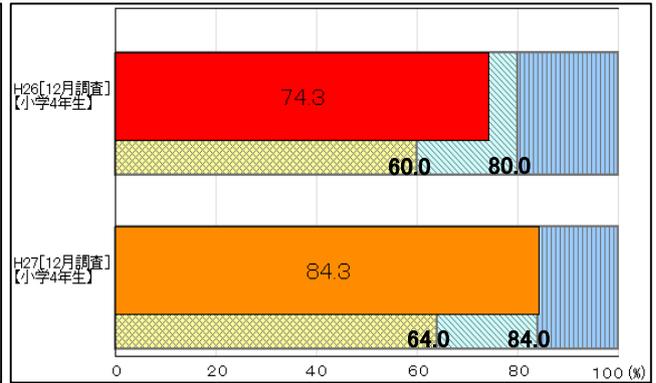
書く能力



読む能力

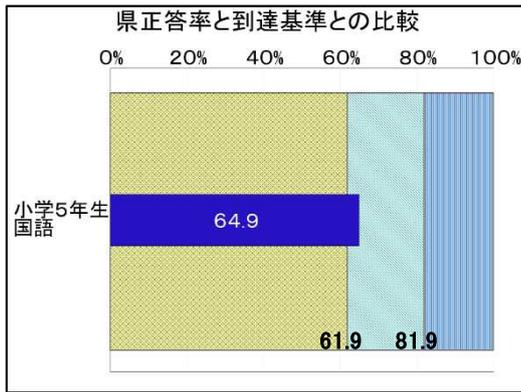


言語についての知識・理解・技能

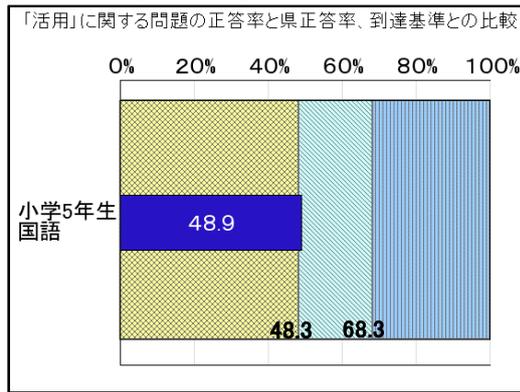


② 小学5年生

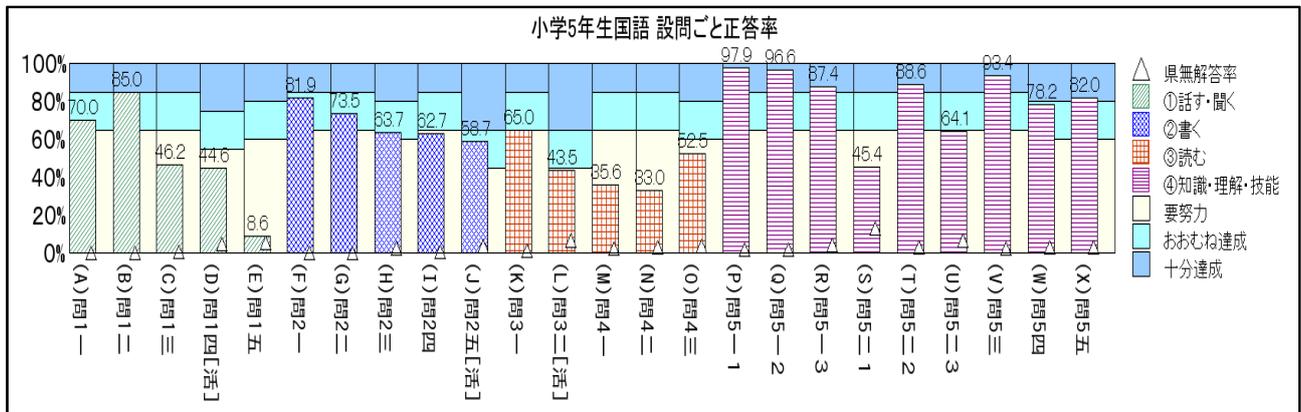
[グラフ8] 教科全体正答率



[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



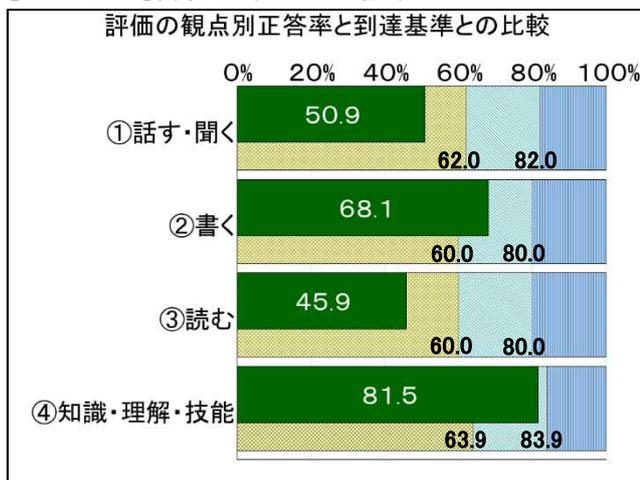
[グラフ10] 設問ごと正答率



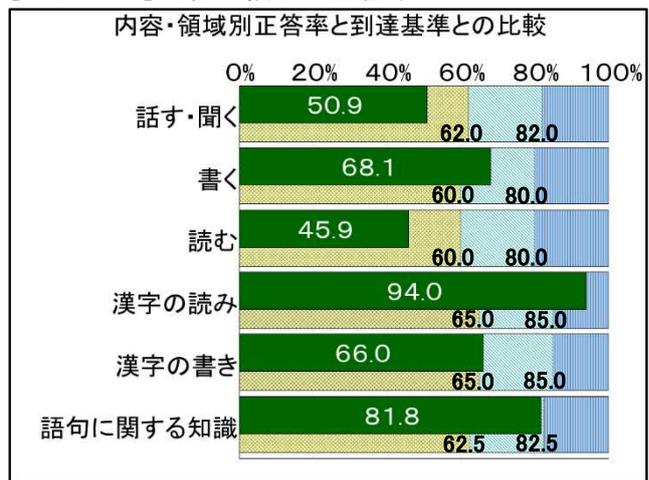
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



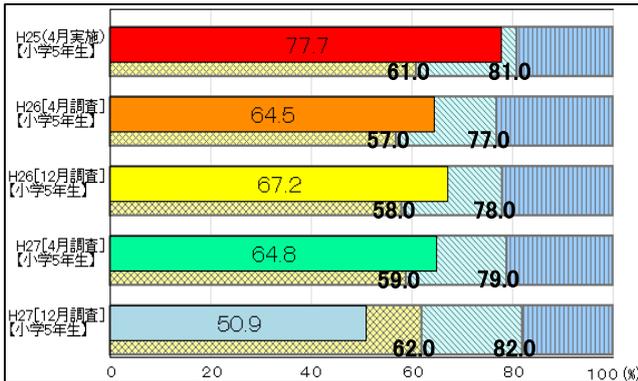
[グラフ13] 内容・領域別正答率



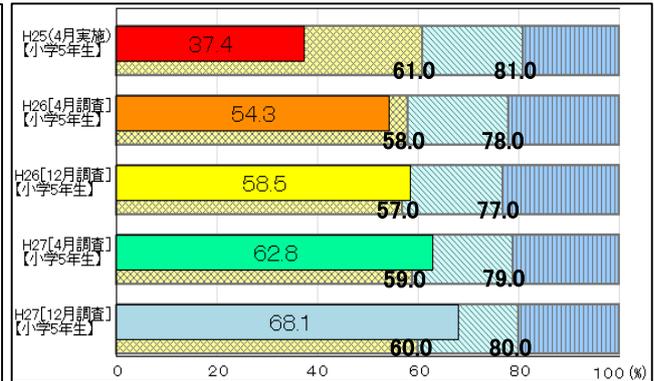
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

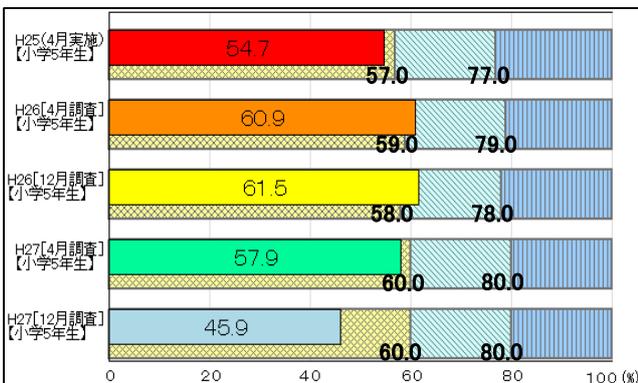
話す・聞く能力



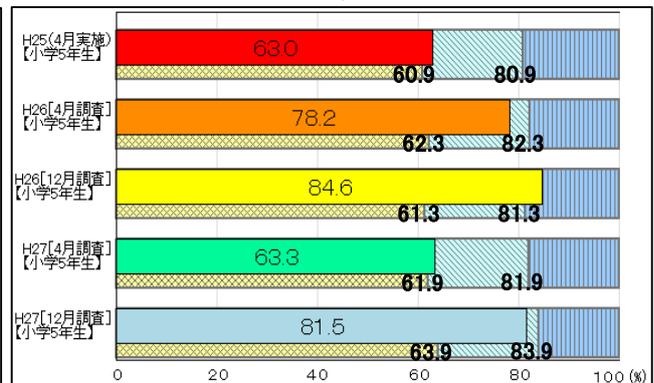
書く能力



読む能力



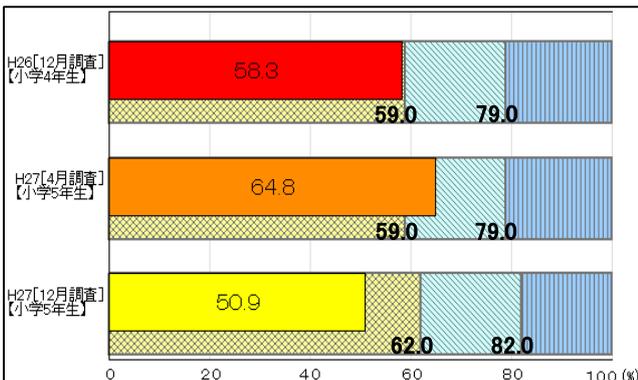
言語についての知識・理解・技能



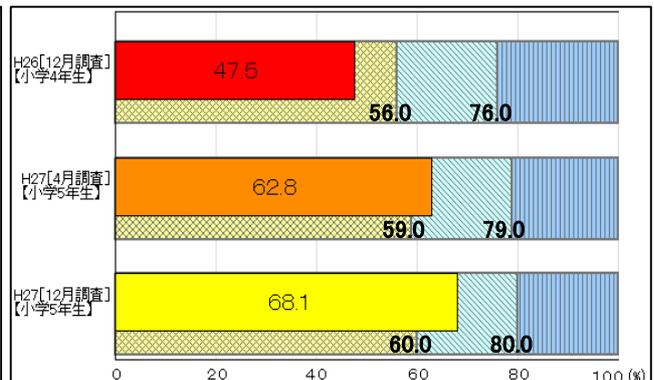
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

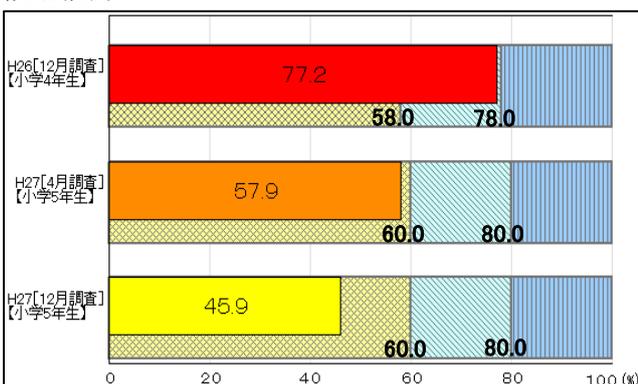
話す・聞く能力



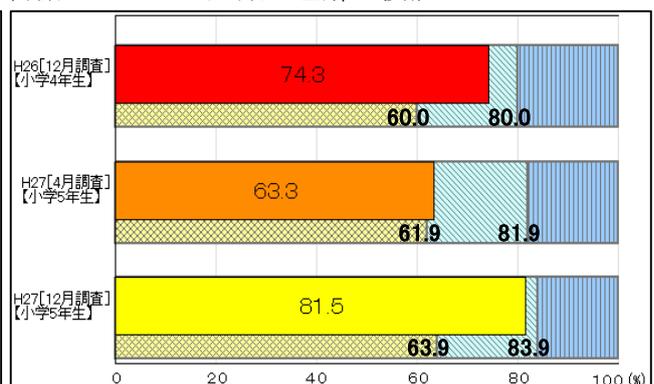
書く能力



読む能力

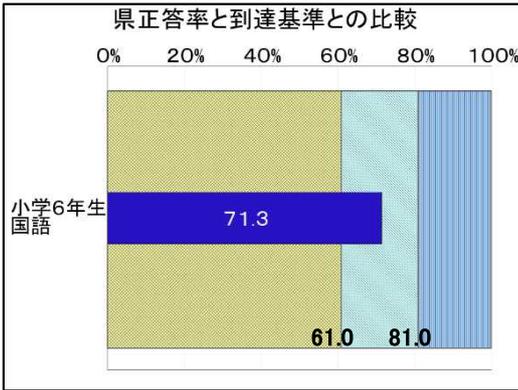


言語についての知識・理解・技能

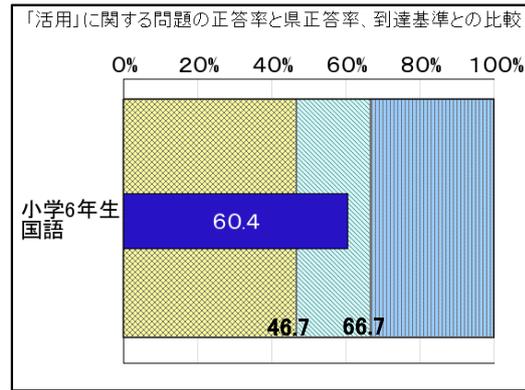


③ 小学6年生

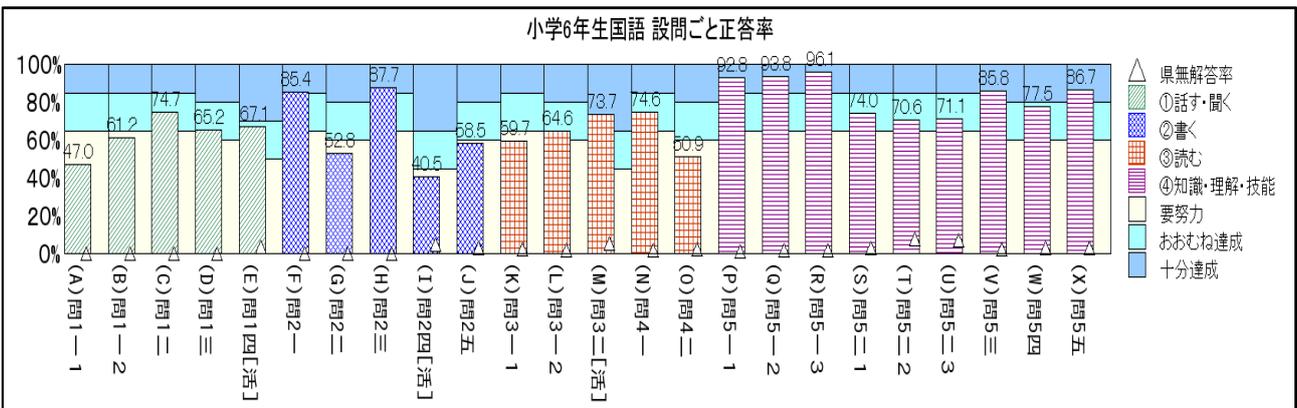
[グラフ16]教科全体正答率



[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



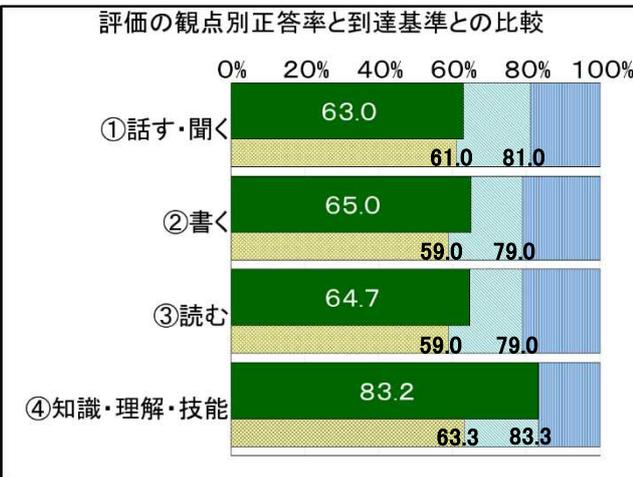
[グラフ18]設問ごと正答率



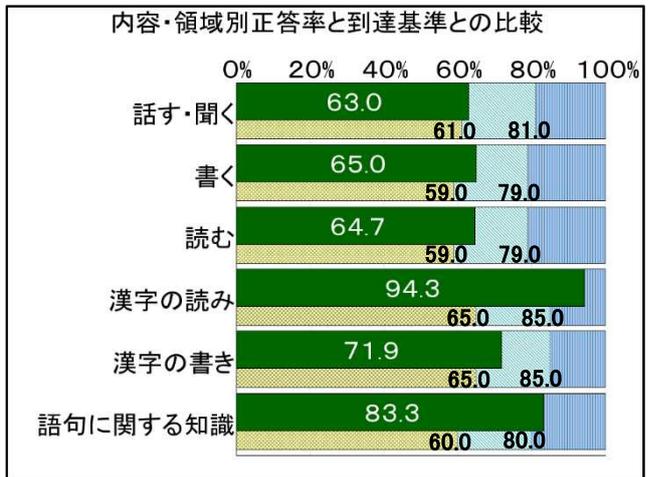
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



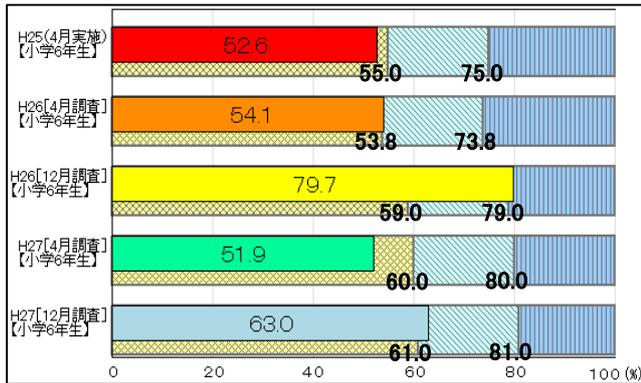
[グラフ21]内容・領域別正答率



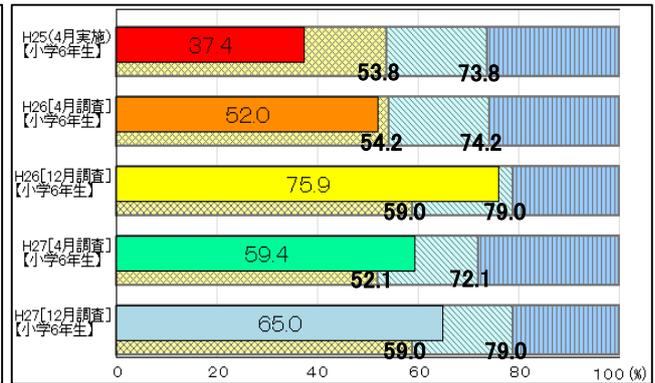
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 26 年度 [4 月調査] までと平成 27 年度 [4 月調査] は、小学 5 年生までの内容で調査。

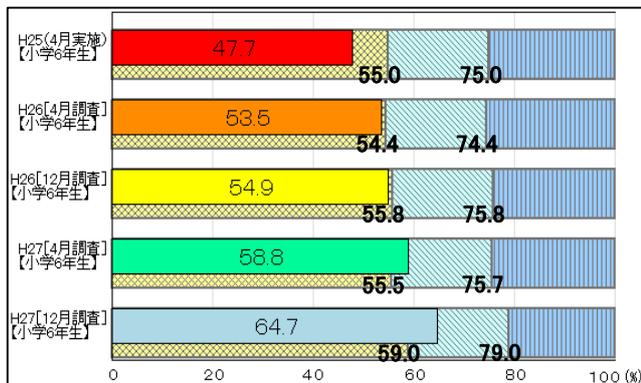
話す・聞く能力



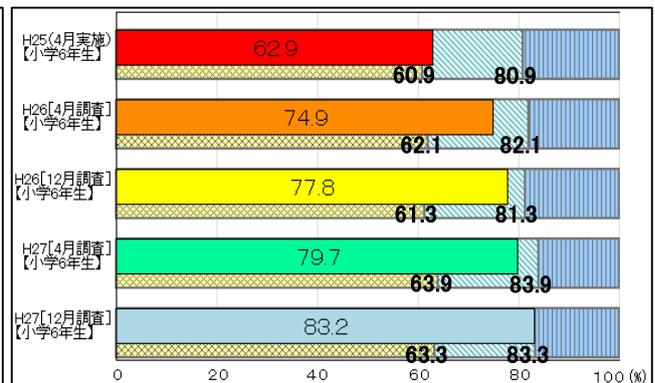
書く能力



読む能力



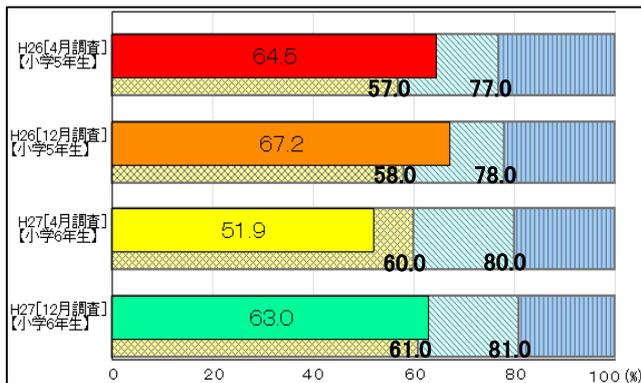
言語についての知識・理解・技能



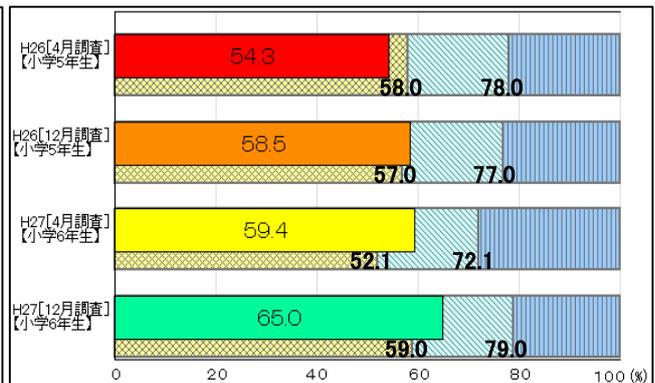
[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 26 年度 [4 月調査] は小学 4 年生までの内容、平成 27 年度 [4 月調査] は小学 5 年生までの内容で調査。

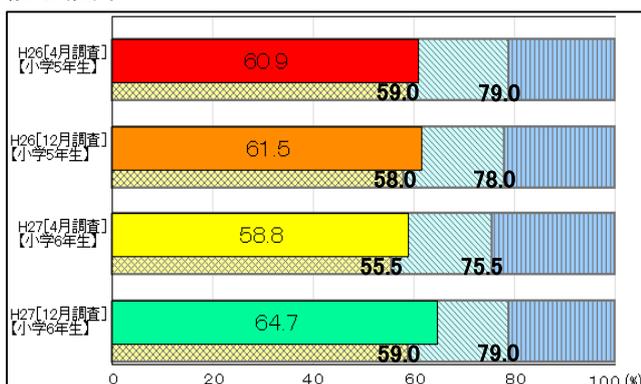
話す・聞く能力



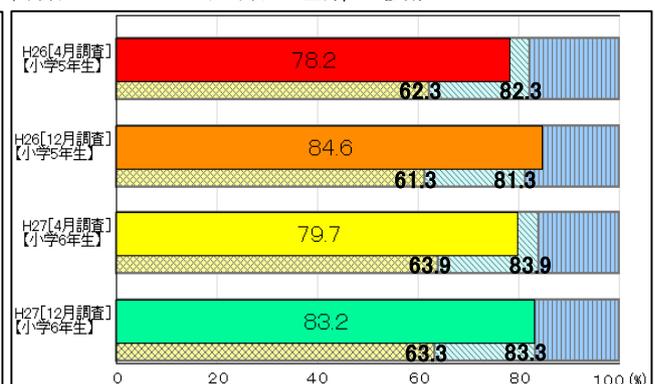
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



2 中学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化（読み）	伝統的な言語文化（書き）	伝統的な言語文化（知識）	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式							短答式
1	一	話し手が伝えたいことを理由も含めてしっかりと聞く	○					○				○			68.8	0.3	70	50	
1	二	司会の役割を理解して進行する	○					○				○			89.3	0.2	75	55	◎
1	三	話合いの話題や方向を踏まえた上で話す	○					○				○			62.3	0.2	70	50	
1	四	伝えたいことを明確にし、筋道を立てて話す	○					○				○			85.4	0.2	70	50	◎
1	五	話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話す	○					○					○	○	37.0	7.0	60	40	▼
2	一	段落の役割を考えて文章を構成する		○					○				○		83.2	2.3	70	50	◎
2	二	表現の仕方についての助言を、自分の表現の参考にする		○					○				○		69.9	0.6	75	55	
3	一	自分の課題に合った材料を選ぶ		○					○				○		34.4	1.1	75	55	▼
3	二	伝えたい事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く		○					○				○	○	38.8	9.5	60	40	▼
3	三	語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする		○					○						91.9	0.8	70	50	◎
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○					○			○		55.0	0.6	70	50	
4	二	文章の事実と意見などを読み分け、要旨を捉える			○					○			○		55.5	7.8	65	45	
5	一	描写に注意して読み、内容を理解する			○					○			○		86.5	1.3	75	55	◎
5	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○					○			○		59.7	1.9	70	50	
5	三	情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつ			○					○			○	○	33.9	24.2	60	40	▼
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・日常生活)「徴収」				○						○		○	51.1	9.4	75	55	▼
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「傷む」				○						○		○	93.8	1.8	75	55	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「削る」				○						○		○	95.0	1.5	70	50	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・他教科との関連)「定規」				○						○		○	86.5	1.4	70	50	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「景色」				○						○		○	92.4	1.3	75	55	◎
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・日常生活)「救急」					○					○		○	52.0	11.5	70	50	
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「預ける」					○					○		○	54.6	12.7	70	50	
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの熟語)「折れた」					○					○		○	82.0	11.0	70	50	◎
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「冷蔵庫」					○					○		○	49.7	10.3	70	50	▼
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「単純」					○					○		○	71.6	10.9	70	50	◎
6	三	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(言葉の単位)						○				○	○		79.8	1.3	70	50	◎
6	四	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く						○				○	○		65.7	1.5	70	50	
6	五	故事成語の意味を文脈に即して理解している						○				○	○		73.4	2.2	75	55	
6	六	一 古典の作品について理解している						○				○	○		82.9	4.1	70	50	◎
6	六	二 歴史的仮名遣いについて理解している						○				○	○		43.5	2.0	70	50	▼

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式							記述式
1	一	話の構成や展開などを注意して聞く	○					○			○				59.9	0.3	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて、自分の考えをまとめる	○					○			○				69.4	0.3	70	50	
2	一	資料を効果的に活用して説明する	○					○			○				70.3	0.5	70	50	◎
2	二	話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す	○					○			○				71.6	0.6	70	50	◎
2	三	話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	○					○				○	○		51.7	5.1	65	45	
3	一	書くために必要な情報を集める		○					○		○				72.8	1.2	75	55	
3	二	意見が相手に効果的に伝わるように工夫して書く		○					○		○				81.6	1.6	75	55	◎
3	三	伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫する		○					○		○				58.2	1.6	70	50	
3	四	書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して推敲する		○					○			○			36.8	13.0	70	50	▼
3	五	伝えたい事実や意見について、自分の考えを明確にして書く		○					○			○	○		40.8	17.8	60	40	
4	一	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を理解する			○					○		○			24.7	4.0	65	45	▼
4	二	文章全体と部分との関係を考えて、内容を理解する			○							○	○		70.0	4.3	65	45	◎
5	一	場面の展開や登場人物の言動の意味を考えて、内容を理解する			○					○		○			75.5	1.8	70	50	◎
5	二	表現の仕方について、書き手の意図を考える			○					○		○			53.5	2.1	70	50	
5	三	文章に表れている考え方について、自分の考えをもつ			○					○			○	○	35.3	28.5	60	40	▼
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「放る」				○					○	○			68.8	6.5	70	50	
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「集う」				○					○	○			85.3	5.3	75	55	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「一切」				○					○	○			96.6	0.9	70	50	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「激励」				○					○	○			61.6	7.9	70	50	
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「今朝」				○					○	○			94.4	2.1	75	55	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「優勝」					○				○	○			87.5	3.3	70	50	◎
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「降りる」					○				○	○			83.1	7.4	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「責任」					○				○	○			83.2	6.6	70	50	◎
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「従う」					○				○	○			65.5	17.5	70	50	
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・同音異義語)「衛星」						○			○	○			69.0	8.9	70	50	
6	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の関係)						○			○	○			27.2	1.7	75	55	▼
6	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(単語の分類)						○			○	○			49.8	1.7	70	50	▼
6	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(類義語)						○			○	○			22.3	1.7	70	50	▼
6	五	行書の基礎的な書き方を理解して書く						○			○	○			95.2	2.2	70	50	◎
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解している						○			○	○			61.1	4.4	75	55	
6	六2	主語を補って読む						○			○	○			81.1	7.1	70	50	◎
6	六3	文語のきまりの知識を生かして、会話文と地の文を読み分ける						○			○	○			29.7	8.2	65	45	▼

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ9]
- 中学1年生及び中学2年生共に、評価の観点別正答率の全てにおいて「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学1年生の「言語についての知識・理解・技能」においては、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、グラフ13]
- 記述式の設問において、中学2年生は4問中3問で「おおむね達成」の基準を上回っているが、中学1年生は全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。[表1、表2]
- 「活用」に関する問題において、中学1年生の正答率は36.6で、「おおむね達成」の基準40.0を3.4ポイント下回っている。特に「情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつこと」を問う設問の無解答率は24.2ポイントである。中学2年生の正答率は49.5で、「おおむね達成」の基準42.5を7.0ポイント上回っているが、「文章に表れている考え方について、自分の考えをもつこと」を問う設問の無解答率は28.5ポイントである。[グラフ2、表1、グラフ10、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」の正答率は68.5で、「おおむね達成」の基準49.0を19.5ポイント上回っている。「司会の役割を理解して進行すること」「伝えたいことを明確にし、筋道を立てて話すこと」を問う設問については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、表1]
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5問中2問が「十分達成」を上回っている。5問中3問が「おおむね達成」を下回っていた平成27年度[4月調査]と比較すると改善が見られる。[表1]
- 「読むこと」領域の「描写に注意して読み、内容を理解すること」を問う設問の正答率は86.5で、「十分達成」の基準75.0を11.5ポイント上回っており、平成27年度[4月調査]と比較すると改善が見られる。[表1]
- 「話すこと・聞くこと」領域の「話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話すこと」を問う設問の正答率は37.0で、「おおむね達成」の基準40.0を3.0ポイント下回っている。[表1]（1年生問1五）
- 「読むこと」領域の「情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつこと」を問う設問の正答率は33.9で、「おおむね達成」の基準40.0を6.1ポイント下回っている。[表1]（1年生問5三）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問1 五	話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話す (記述式)	学級会の内容を知らない担任の先生に、司会が報告をする。	37.0	7.0	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

学級会の内容を知らない担任の先生に報告をするという場面設定と示された3つの条件を踏まえて書くことができなかったと考えられる。または、話し合いで出た二つの意見とそれぞれの理由を整理して書くことができなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

本設問は、「話すこと・聞くこと」についての場面設定であるので、①話し合いで出た意見とその理由を整理して話を構成すること、②相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話すことの2点を踏まえる必要がある。普段の授業においても、「話す内容やその構成」と「話し方」の両方を取り上げた学習活動を仕組み、条件に合った内容の選択や構成、話し方について、生徒自身が考えて学習活動に取り組むことができるようにすることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問5 三	情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつ (記述式)	「小さな、小さな、虹をつくった」という表現に表れるなっちゃんの気持ちを想像して、文章の内容を踏まえて、自分の考えを書く。	33.9	24.2	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

出題の趣旨に沿って、なっちゃんの気持ちを想像して書くためには、場面設定を理解し、「小さな、小さな、虹をつくった」という表現に込められている意味を読み取り、そこに表れる心情を読み解く必要がある。本設問では、表現に込められている意味を読み取ることができなかつたために、問いに合った自分の考えを書くことができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

文学的な文章の内容理解を図るためには、人物や情景の「描写」など、表現の特徴に着目して文章を読む機会を設けることが大切である。その際、「描写」という学習用語のもつ意味についての理解を図り、それを手掛かりとして生徒が主体的に読むことができるように学習活動を仕組む。また、読み取ったことをまとめる際には、条件を示し、書く内容を明確にするとともに、そのことについて、感想にとどまらず自分の考えを書くように指導することが必要である。

文章の読み取りを一斉指導で行うだけでは、生徒自身で読解する力は身に付きにくいので、読解から自分の考えをまとめるまでを一連の学習活動として、生徒主体で取り組ませるようにすることも大切である。

③ 中学2年生

○ 「活用」に関する問題の正答率は49.5で、「おおむね達成」の基準42.5を7.0ポイント上回っており、4問中1問が「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ10、表2】
○ 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5問中3問が「十分達成」の基準を上回っていた。全ての設問で「十分達成」の基準を下回っていた平成27年度[4月調査]と比べると、改善が見られる。【表2】
● 「書くこと」領域の「書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して推敲すること」を問う設問の正答率は36.8で、「おおむね達成」の基準50.0を13.2ポイント下回っている。【表2】(2年生問3四)
● 「読むこと」領域の「文章に表れている考え方について、自分の考えをもつこと」を問う設問の正答率は35.3で、「おおむね達成」の基準40.0を4.7ポイント下回っている。無解答率も28.5ポイントである。【表2】(2年生問5三)

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問3 四	書いた文章を読み返し、 語句の使い方に注意し て推敲する (短答式)	文章の下書きを読み 直して、不適切な表 現を適切な表現に書 き直す。	36.8	13.0	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

「すごく」という話し言葉が生徒の日常会話で身近に用いられていることから、書き言葉として不適切であることに気付くことができなかつたためと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

日頃から、書き言葉を指導する際には、「なので」「やっぱり」「ちゃんと」といったような話し言葉を用いないことや文頭には使わない言葉の確認をすることなど、丁寧な指導を心掛けることが必要である。また、教師自身も、学級通信などの記述に細心の注意を払うなど、授業外も含めた日々のきめ細やかな指導の積み重ねが、適切な言語環境を整えることや、生徒の適切な語彙の獲得につながっていることに留意したい。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問5 三	文章に表れている考え 方について、自分の考 えをもつ (記述式)	「ぼくの気持ちは明 るくなった」という 部分から、「ぼく」 の「曲馬団の親方」 に対する気持ちを、 文章中に書かれてい る内容を根拠にして 書く。	35.3	28.5	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

曲馬団の親方を憎らしく思っていた気持ちに変化するという問題文中の場面設定の条件を読み取れていなかったため、「ぼく」の「曲馬団の親方」に対する気持ちに絞って書くことができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

普段の授業において、一問一答や即答できるような発問だけでなく、まとまった考えを述べさせるような発問を工夫する。その際、前提条件を踏まえた読みを行わせたり、発問に対して適切な答え方ができるようにさせたりするなどの指導が大切である。また、文章を読む際には、必要な情報に線を引くなどの習慣を身に付けさせると効果的である。

文章を読んで内容を理解したことを書くこと、文章を読んで感じたことや考えたことを書くことについては、改善の傾向が見られる。しかしながら、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることには、依然として課題がある。生徒が、「根拠を明確に」して、自分の考えを書いたり発表したりする場面では、自分の考えの根拠となる段落や文などを明らかにさせるような指導を行う必要がある。

書き手のものの見方や考え方について、「知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ」ことについては、これまで身に付けてきた知識や様々な体験と関連付けて、賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりするなど、具体的なものに基づいて自分の考えを形成させることが大切である。書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして読む場面をつくり、普段から自分の問題として捉え、考えるようにさせると効果的である。

(3) 改善のポイント

○ 文章に表れているものの見方や考え方を読み取り、条件に合わせて、自分の考えを書く活動の充実を図ること（1年間5三、2年間5三）

- ・ 文章を読ませる際には、文章に書かれている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げさせていくことが大切である。
- ・ 文章を読ませ、感じたことや考えたことを書かせた後は、対話や討論等を通して、意見の交流をさせ、自分の考えを広げさせるような機会を設けることが有効である。
- ・ 文章を読ませ、条件に合わせて自分の考えを書かせる際には、条件の読み取りに重点を置いたり、読み取ったことをどのように書けばよかったのかを書いた後に振り返らせたり、書いたことが条件に合っているかどうか確認させたりするような指導が効果的である。

○ 相手や目的、状況に応じて分かりやすく話す活動の充実を図ること（1年間1五）

- ・ 話合いの話題や方向を捉えて的確に話すためには、「誰と」「何について」話し合っているのかということや、「何のために」話し合っているのかを理解し、それに応じた話し方ができることが大切である。普段から少人数での話合いやグループ学習などの際にも、このことを意識して取り組ませることが有効である。
- ・ 相手に分かりやすく話すためには、伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などを区別して話す必要がある。報告は、知らせたり伝えたりして情報を共有することが主な目的である。その際、相手はどのような情報を既にもっているのかを意識して話すようにさせるとよい。そのためには、より具体的かつ実際的な学習場面を設定した授業をつくることが大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

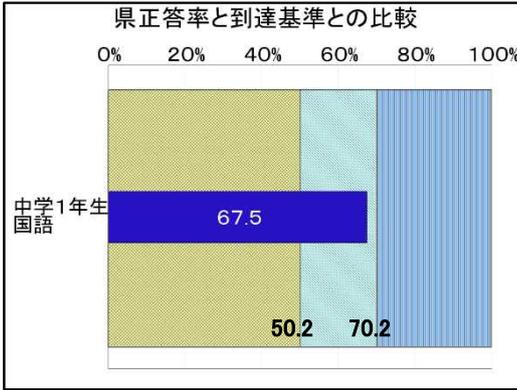
佐賀県教育センターでは、教育センターWeb ページにおいて、授業に役立つ実践研究として「学習プリント」を提供しています。プリントは、①基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための「知識・技能プリント」②学習したことが身に付いたかどうか確かめる「確認プリント」の2種類です。生徒の実態に合わせて、授業で取り扱ったり、家庭での自学自習用の教材として使ったりすることができます。関連の「手引き」（「生徒用手引き」に同じ）も提供しています。中学1年生から中学3年生まで生徒の実態に応じて適宜選択して、いろいろな場面でお使いください。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」領域（文学的文章）の授業改善について、Web アップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

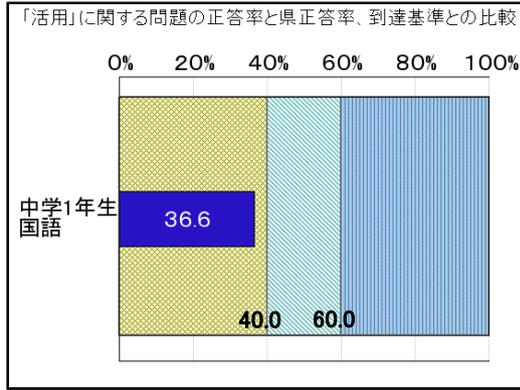
<資料>

① 中学1年生

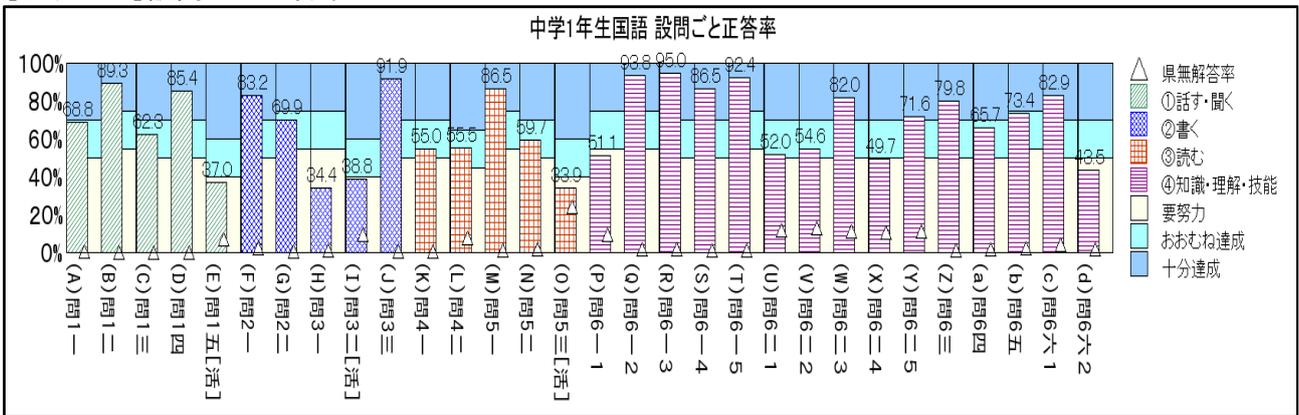
[グラフ1]教科全体正答率



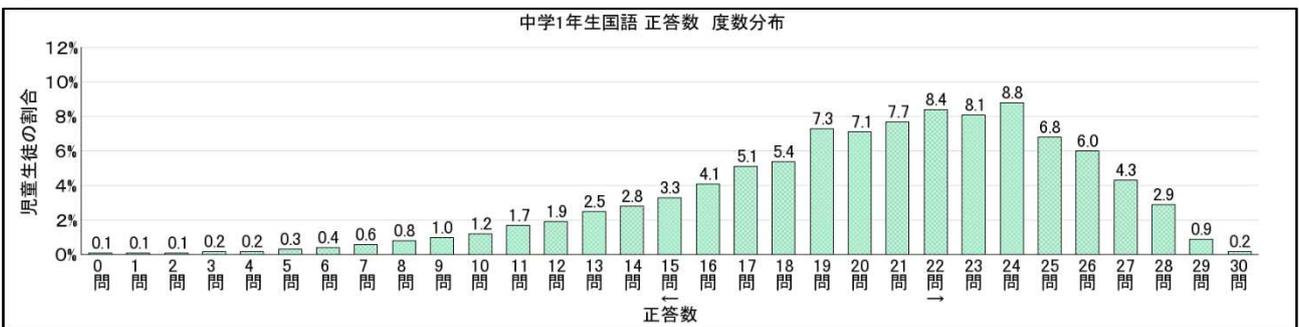
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



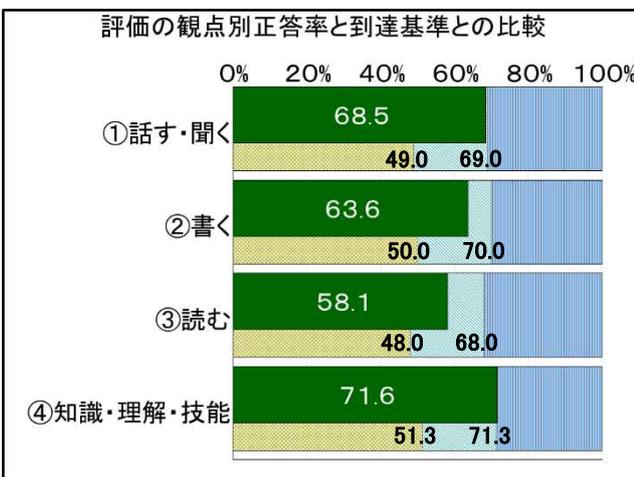
[グラフ3]設問ごと正答率



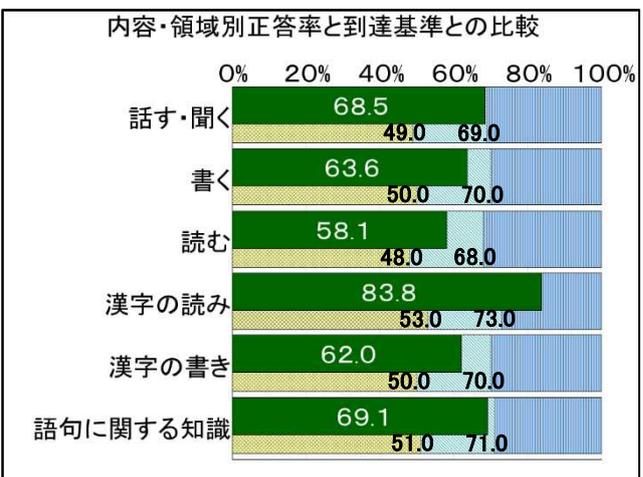
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率



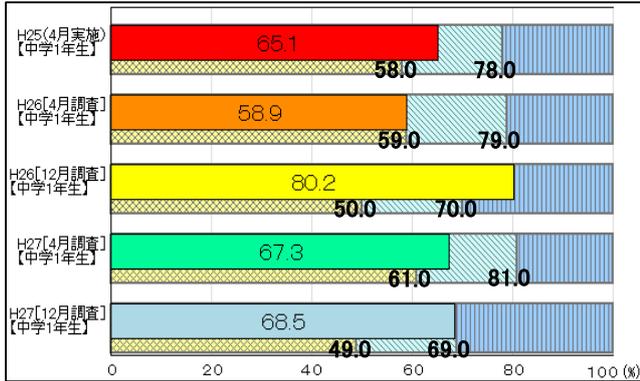
[グラフ6]内容・領域別正答率



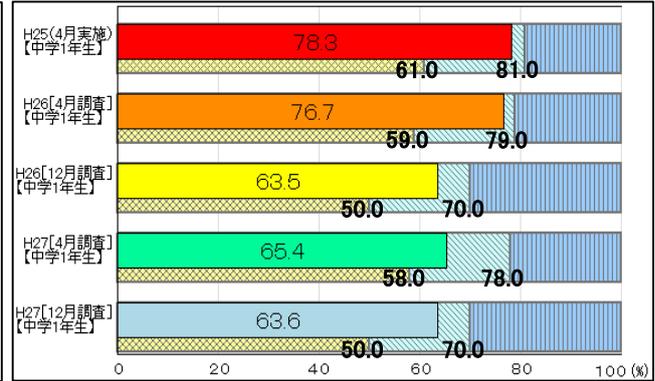
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までと平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

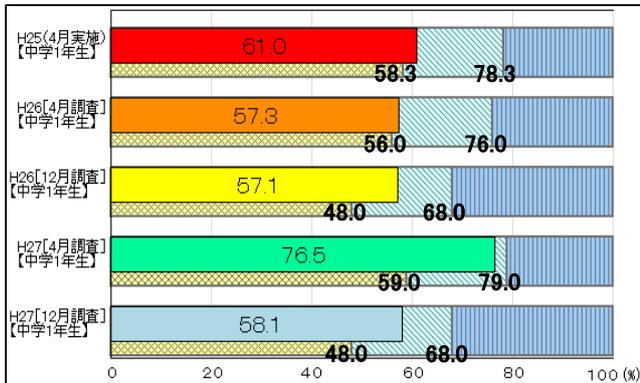
話す・聞く能力



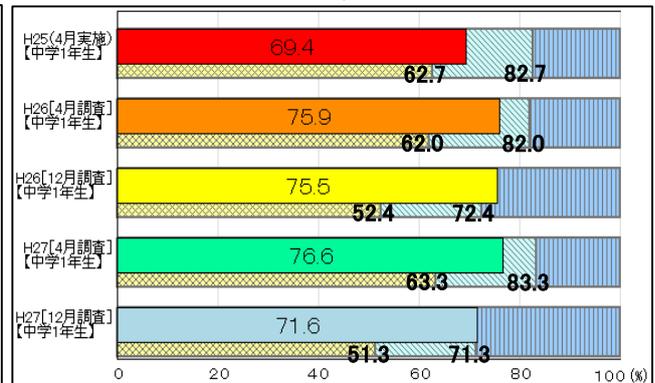
書く能力



読む能力



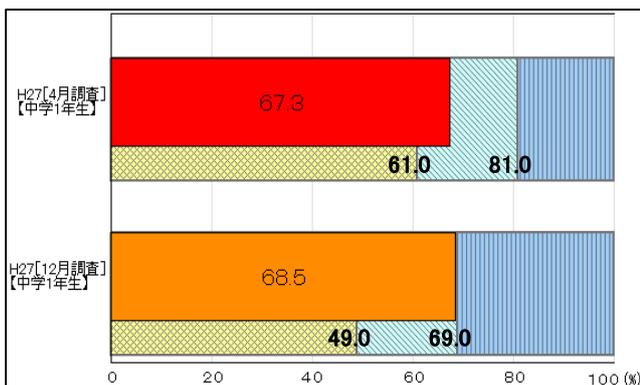
言語についての知識・理解・技能



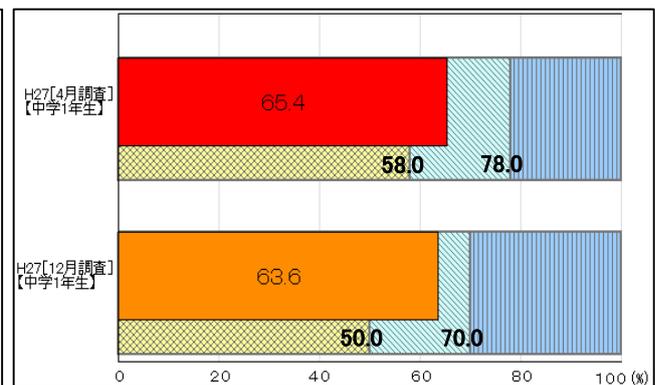
[グラフ8] 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

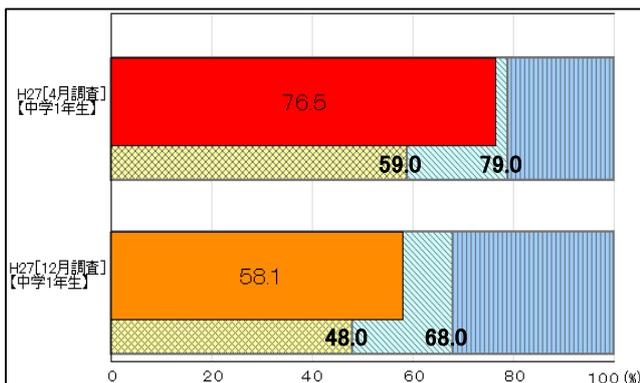
話す・聞く能力



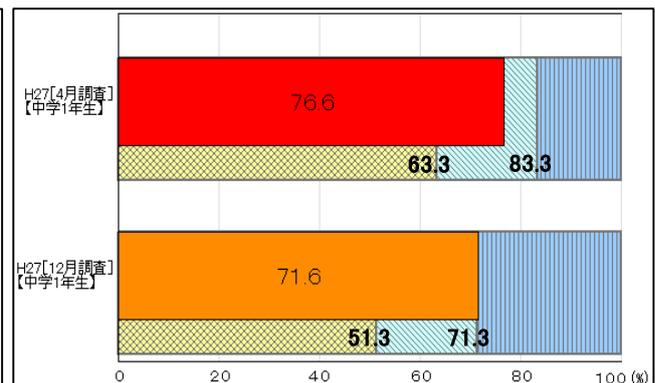
書く能力



読む能力

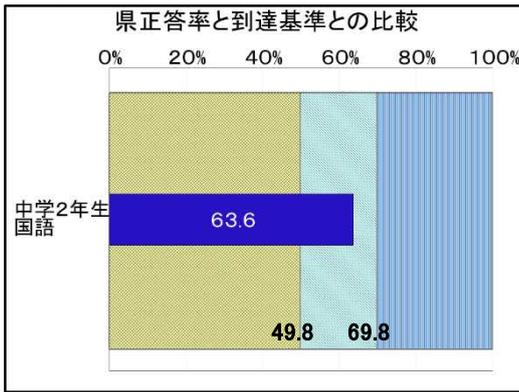


言語についての知識・理解・技能

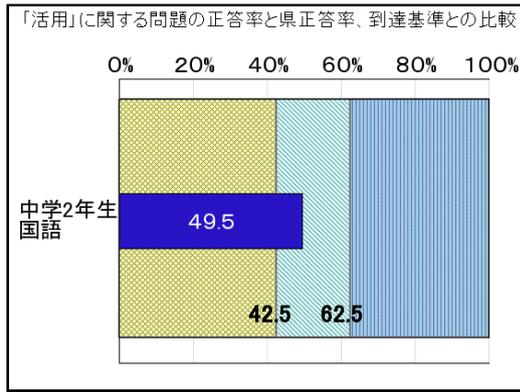


② 中学2年生

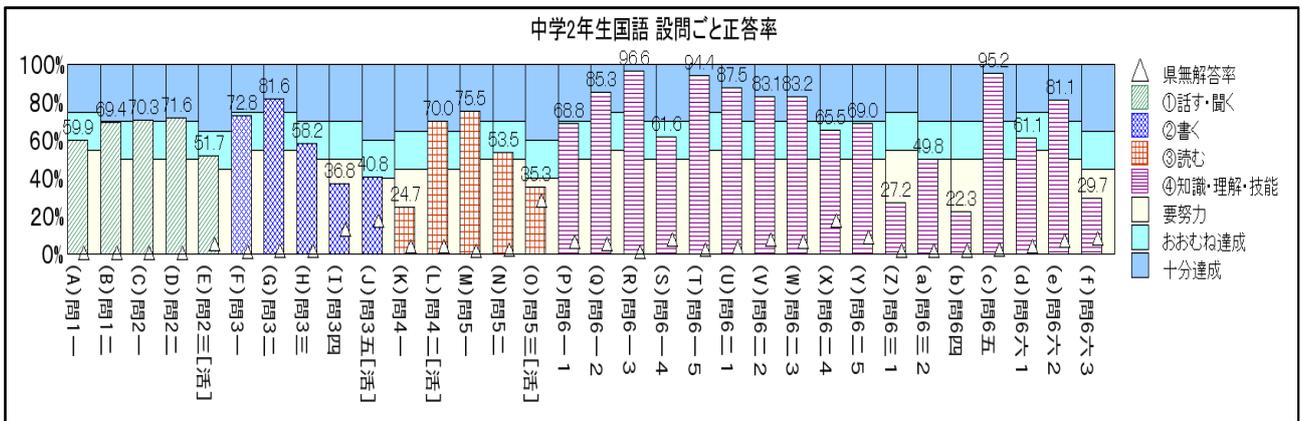
[グラフ9]教科全体正答率



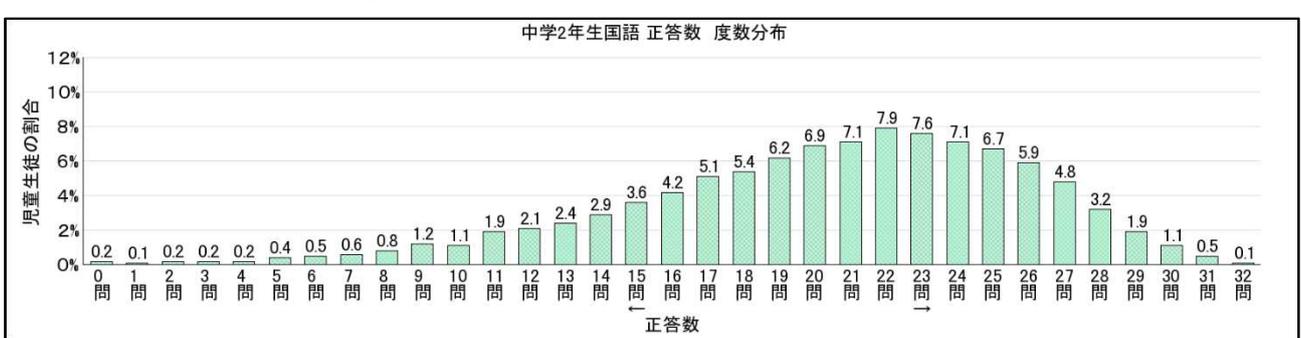
[グラフ10]「活用」に関する問題の正答率



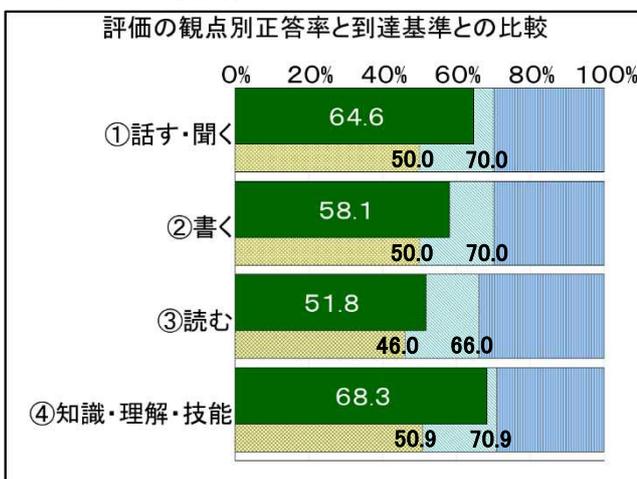
[グラフ11]設問ごと正答率



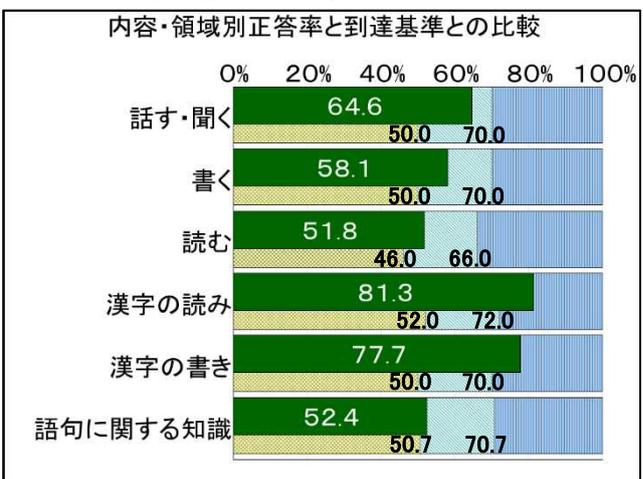
[グラフ12]教科正答数度数分布



[グラフ13]観点別正答率



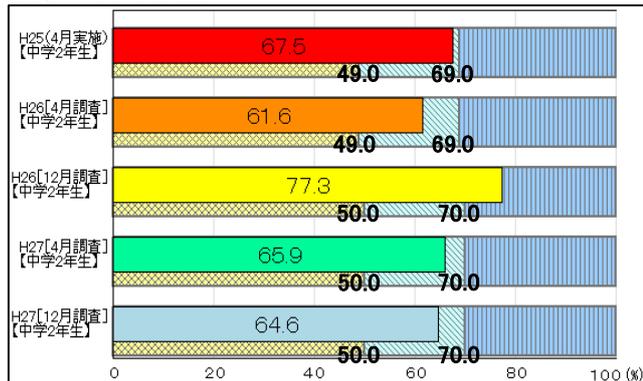
[グラフ14]内容・領域別正答率



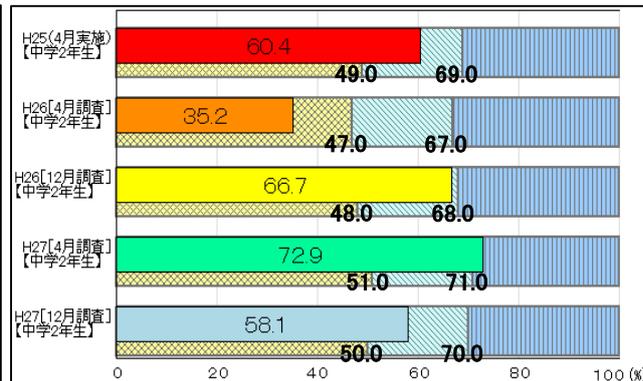
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、中学 1 年生までの内容で調査。

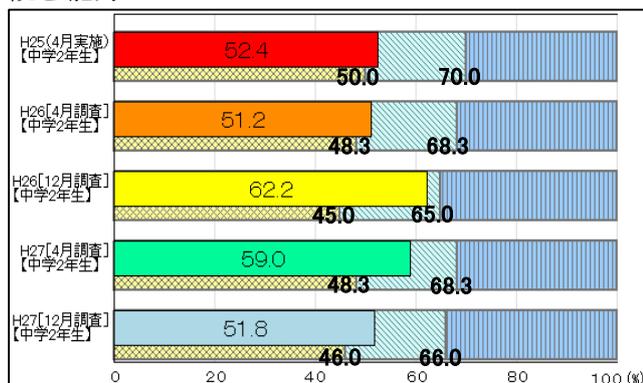
話す・聞く能力



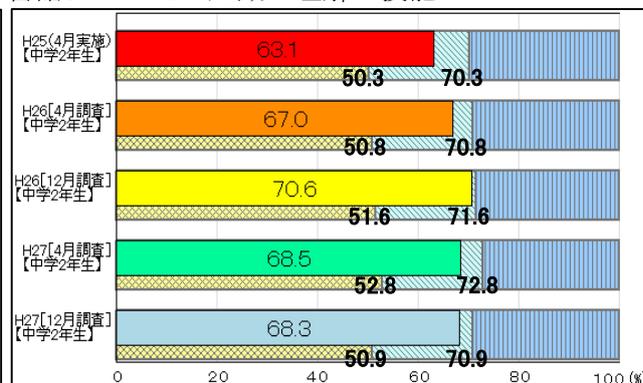
書く能力



読む能力



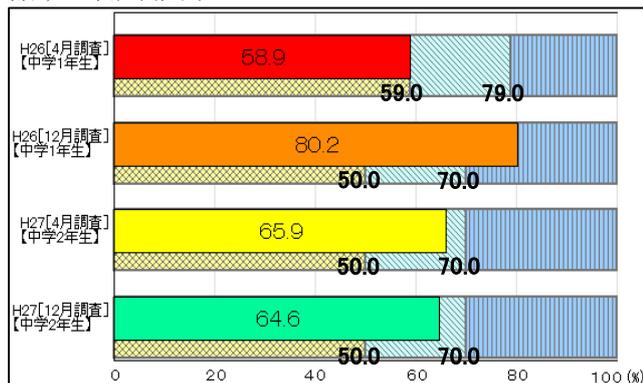
言語についての知識・理解・技能



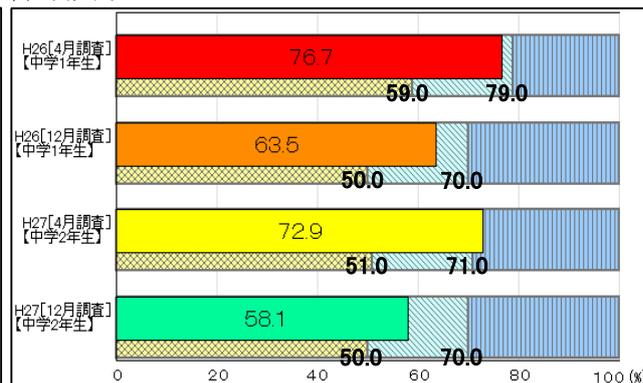
[グラフ 16] 評価の観点別正答率(同一生徒)

※ 平成 26 年度[4 月調査]は小学 6 年生までの内容、平成 27 年度[4 月調査]は中学 1 年生までの内容で調査。

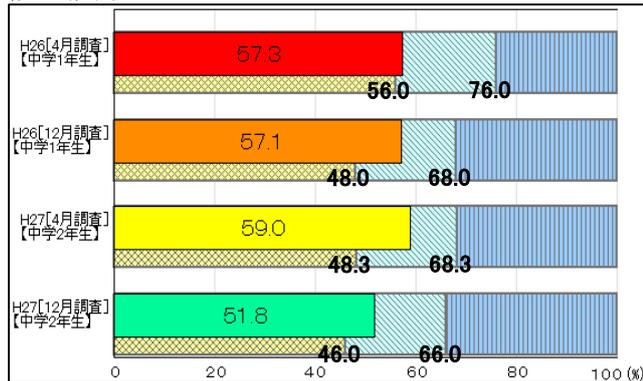
話す・聞く能力



書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能

